

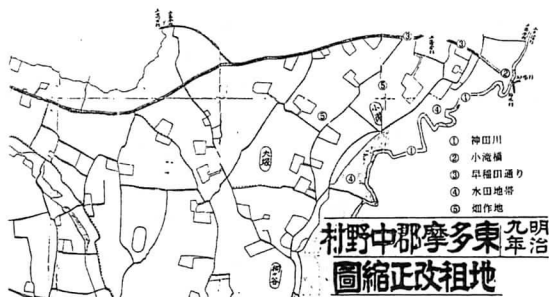
明治初期の東中野（その2）

一枚の地図

卓上に一枚の地図があります。明治5年、地租税なるものが設けられ、それに関連して作られた、東中野地区の地形図です（中野区立歴史民俗資料館提供）。蛇行して流れる神田川、小滝橋、そして早稲田通りと、大体現在のイメージが判る図面ですが、問題はその中味です。神田川に面している低地は水田地帯、あとは台地で、点在している宅地以外はすべて畑作地帯という注釈がついています。前号の『陸粳（りくこう）』はこの畑作台地をつくられていました。

そこで現在の地図をこの上に重ねたらどうなるでしょうか。現在のそれは隙間なく建てられた一軒一軒に、個人の名前からビルの名称まで、一目瞭然はつきりと記載されています。

私は大正14年生まれですので、昭和初期以降の町の移り変わりは鮮明な記憶があります。小学校に入るころはもはや水田、畑作地はありませんでした。中央線の開通によって都心に近いこの地区は絶好の住宅地として発展し、今日のような町の姿が出来上がりました。健康的な東中野台地、神田川の桜は今年もまた見事に開花し、明治には見られなかった新しい風景が生まれました。



神田川（その1）

去る5月3日、NHKで「そして歌は誕生した」という番組の再放送があり、3つの曲が紺野美沙子さんの解説で放送されました。その一つが“甦る青春”というタイトルで、南こうせつさんと当時放送作家であった喜多條忠さんの傑作『神田川』という歌でした。解説によると、歌ができた昭和48年頃、喜多條さんは小滝橋近くの三畳一間の下宿に住んでおられたとのこと。あまりにも有名になったこの歌は、『歌碑』となつて平成8年10月、末広橋の際に建てられています(写真)。

さて、この神田川は、過去度重なる洪水被害から、大規模な改修工事が下記別表の年次のごとく行われ、川の両側に遊歩道ができて完成しました。建設中は「神田川リバーサイドロード」という仮名でしたが、平成4年4月17日、一般公募の2名が選んだ『神田川四季の道』という愛称がつけられました(写真は開通式)。また、新宿区側のほうは、『神田上水公園』と呼ばれ、両側に植えられた桜の並木は立派に成長し、満開時は実に見事です。人出は毎年多く、すっかり桜の名所に定着したようです。

